

（蔵王）地区：（宮・円田・遠刈田）中学校区の実組

【推進校】 蔵王町立円田小学校 蔵王町立平沢小学校 蔵王町立永野小学校
蔵王町立宮小学校 蔵王町立遠刈田小学校
蔵王町立円田中学校 蔵王町立宮中学校 蔵王町立遠刈田中学校
宮城県蔵王高等学校

【目標】

家庭及び地域と連携して、児童生徒が蔵王町に育つことを誇りに思い、自信と意欲をもって未来を切り開いていけるよう、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考えさせながら、よりよい生き方を求めさせていく志教育を蔵王町全体で推進する。

【取組の概要】

（1）取組方針

- ①志教育の3つの視点を踏まえ、各学校の特性を生かした教育計画についてPDC Aサイクルを進め発達段階に応じた系統的・持続可能な取組を推進する。
- ②ふるさとに誇りをもち、生涯にわたる「学び」の中で、自分の夢や希望の実現に努力しようとする人づくりをする。
- ③蔵王町ならではの地域社会の力を活用し、児童生徒の豊かな人間性を育む環境づくりを進める。

（2）具体的な事業の展開等

- ①先人・偉人・地域に学ぶふるさと教育【学校】
- ②地域との連携・ボランティア【学校・地域】
- ③職場体験学習・起業家教育【学校・町・産業界】
- ④学校間交流【小・中・高等学校 異校種間】
- ⑤農・林業体験【学校・産業界】
- ⑥手をつなぐ親の会(特別支援)【学校・地域】
- ⑦ジオパーク学習【学校・町】
- ⑧中学校区防災訓練【学校・地域・町】
- ⑨蔵王P.S.C活動【学校・地域・警察】
- ⑩志教育に関する意識調査
- ⑪事例発表会の開催



【②大会でのボランティア】



【⑤地域の方との梨栽培】



【⑧中学校防災訓練】



【⑪事例発表会】

【成果】

- ・各校では児童・生徒の交流等の教育活動のみならず、テーマの校内掲示、志教育についての文書回覧、学校だよりへの掲載等、活発な実践が行われ、充実した志教育が推進された。
- ・事例発表会では、各校の実践により志教育のねらいと地域の方々の思いが町内の児童生徒の心に伝わっている様子が発表された。
- ・講演会「何のために働くか」では人とのかかわりや自己の生き方について示唆に富んだ内容で参加者から感銘を受けたとの感想が多く寄せられた。

【課題】

- ・各校における本年度の実践を踏まえた年間指導計画の修正及び自校化の推進を図る。
- ・校種間・地域・関係機関との連携と交流の推進と蔵王町内への志教育の更なる啓発に努める。

（ 大 衡 ） 地 区 ： （ 大 衡 ） 中 学 校 区 の 取 組

【推進校】

大衡村立大衡小学校 大衡村立大衡中学校 宮城県黒川高等学校

【目 標】

社会に生きる人間として、よりよい協調性と勤労観を養い、これからの社会で果たすべき自己の役割を自覚させながら、社会人としての生き方を主体的に形成し、未来の大衡村を担う誇りと自信に満ちた児童生徒を育成する。

テーマ：大衡の未来は、夢づくり、人づくり、地域づくり

【取組の概要】

- (1) 「志教育支援事業大衡地区推進協議会」の設置～平成27年6月2日発足
- (2) 教職員による相互授業交流
 - ・みやぎ先人集「未来への架け橋」を用いた道徳授業の実践・参観
 - ・研究授業等による相互授業参観
- (3) 児童・生徒による学習交流
 - ・おおひら万葉こども園保育実習（中学校）
 - ・小学校学芸会児童公開での合唱披露（中学校）
 - ・中学校授業体験（小学校：数学・英語）
- (4) ものづくり教室の開催
 - ・黒川高等学校、宮城教育大学との連携事業（中学校・高等学校・宮城教育大学）
- (5) キャリア教育の推進
 - ・業界研究ガイダンスの実施（高等学校）
 - ・職場体験学習の推進（中学校）
 - ・職場体験学習発表会の開催（小学校・中学校）
 - ・高校の先生の話聞く会、先輩の話聞く会の実施（中学校）
 - ・ジュニアインターンシップの推進（高等学校）
 - ・製菓体験学習の実施（高等学校）
- (6) 地域交流の推進
 - ・「おおひら万葉おどり」講習会の実施（小学校・中学校・高等学校）
 - ・大衡地区防災訓練への参加（小学校・中学校）
 - ・スカイハイおおひらへの参加（小学校・中学校）
 - ・収穫祭の実施（小学校）
 - ・志教育だより「おおひらっ子通信」の発行・村内全戸配付（小学校・中学校・高等学校）
 - ・広報おおひらでの志教育事業の紹介（小学校・中学校）
- (7) あいさつ運動の継続（小学校・中学校・高等学校）
- (8) 奉仕・ボランティア体験活動の充実
 - ・世界一大きな絵2020プロジェクトへの参加（小学校）
 - ・たてわり清掃活動の実施（小学校）



中学校授業体験



ジュニアインターンシップ

- ・スペシャルオリンピックスへの参加（中学校）
- ・道で咲かせよう東北の花プロジェクトへの参加（高等学校）
- ・トイレ清掃イベントの実施（高等学校）
- ・セツ森希望の家ボランティア・介護施設訪問・七峰荘訪問の実施（高等学校）
- ・ボランティアデーの実施（中学校）
- ・桜苗木植樹活動への参加（中学校）

(9) 学校間運動相互交流の実施

- ・大衡村民体育大会への参加（小学校・中学校）
- ・中学校壮行式への参加・応援メッセージの作成（小学校）
- ・部活動体験入部（小学校）
- ・中学校部活動への指導（高等学校）



スペシャルオリンピックス

【成果】

- ・半数以上の児童・生徒が、志教育の活動で自分自身の夢や希望を持つことができた。
- ・1年間の志教育の活動で6割の生徒が自分の将来を深く考えることができた。
- ・志教育の活動を行ってよかったという生徒が、約8割に達した。
- ・志教育の実践は、大変意味の深いものであることを再認識できた。
- ・教職員の志教育に対する意識ばかりでなく、子どもたちの意識も高めることができた。
- ・小学校、中学校、高等学校の各校種の特色に応じた実践内容を、志教育の視点で再構築することができた。
- ・小・中・高の連携を今まで以上に強化することができた。
- ・児童、生徒同士のつながりを深めることができ、「絆」を形成することができた。
- ・小学生と中学生の交流を深め、先輩たちへの信頼感が高まり、小学生の中学入学後の抵抗感を低下させることができた。
- ・夢、希望、志を抱く子どもが増えたことを感じる事ができた。

【課題】

- ・継続していくことは大切だが、予算等の制約で困難も生じること。
→来年度も継続可能な事業は実施していく方向で考えている。小学生の新人大会壮行式への参加や、授業体験、部活動体験、中学生の学会会での合唱披露、中高のものづくり教室については、来年度も継続していくことを確認した。
- ・小学校、高等学校間の連携が少なかったこと。
→来年度小学校がICTを用いた「学力向上研究指定校事業」に取り組む。この事業と連携し、相互授業参観等を行うことを確認した。
- ・さらに高い志をもった児童・生徒を育成すること。
→今後も学校だけでなく、村全体で「大衡の未来を担う、誇りと自信に満ちた、児童・生徒」を育成していくことを確認した。



実践事例発表会



実践事例発表会



実践事例発表会

（ 加 美 ） 地 区 ： （ 中 新 田 ） 中 学 校 区 の 取 組

【推進校】

加美町立中新田中学校，加美町立中新田小学校，加美町立鳴瀬小学校，加美町立広原小学校
宮城県中新田高等学校

【目 標】

小中高等学校の学習交流や部活動交流等の連携を積極的に図り，児童生徒の発達段階に応じた的確な指導・支援を行い，地域の自然・人からの学びを土台に，ふるさと中新田に誇りをもち，ふるさとを語れる社会人を育てていく。

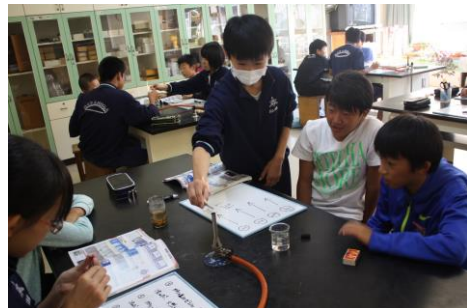
【取組の概要】

- (1) 小小交流会（10月1日）



▲中新田のよさについての話し合い

- (2) 小中交流会（10月6日）



▲中学生が小学生に授業サポート

- (3) 志教育講演会（11月4日）



▲いがらしみきお氏による講演

- (4) 事例発表会（1月29日）



▲小中高生による1年間の活動紹介

【成 果】

- (1) 小中高連携による学びの共有

交流活動を通して相手のよさや自分のよさに気づき，自己肯定感，自己有用感を味わうことができ，自分の目標や夢に自信をもつことができた。また，ふるさと中新田に目を向けた交流から，ふるさと中新田を大切にしたいという思いを共有することができた。

- (2) 自分の夢から自分の志への高まり

地域の方の協力のもと各校で行った体験活動や異校種間の交流活動により，児童生徒は夢から憧れ・希望，希望から志へと自分の将来への思いを各発達段階に沿って具体的に思い描くことができるようになった。

【課 題】

- (1) 地域の活性化につながるような地域との連携，地域への情報発信
(2) 中新田中学校区におけるテーマの共有と地域を軸にした継続・段階的な取組

（栗原）地区：（栗原西）中学校区の取組

【推進校】 一迫小学校 花山小学校 栗原西中学校 一迫商業高等学校

【目標】 テーマ 『 見つめよう自分！ 見つめよう未来！ ～人・恵み・命・夢・つなぐ～ 』

人や社会とかかわる中で社会性や勤労観を養い、集団や社会の中で果たすべき自己の役割を考え、将来の社会人としてのよりよい生き方を主体的に求めていく児童生徒を育成する。

【取組の概要】

- (1) これまでの各校の志教育を見直し、新たに栗原西中学校区の志教育全体構想図、テーマに基づく年間活動計画を作成し、各校ごとに志教育の活動実践を深めた。
- (2) 「地域」・「他校」・「企業」とかかわる活動を積極的に行い、地域、異校種、企業との連携を大切に活動した活動を積極的に行った。
- (3) 「みやぎの先人集」に基づいた授業実践を行った。
- (4) 「児童生徒交流発表会」を実施し、交流を深めた。

主な内容

①児童生徒の発表

- ・一迫小「ゆりの花を咲かせよう」「ラジオ体操」等
- ・花山小「ぼくらネイチャー探検隊」「さくら岡祭り」等
- ・栗原西中「地域サポート活動」等
- ・一迫商業高「地域とのかかわりを大切に活動から」

②講演

- ・演題 「南くりこま高原一迫ゆり園にかける思い」
- ・講師 町おこしユリの会 会長 黒澤 征男 氏

【成果】

- (1) 各校ごとに、それぞれが行ってきたこと、これから新たに行おうとしている志教育の実践活動を、みやぎの志教育の3つの視点「もどめる」「かかわる」「はたす」と本事業のかかわりの観点「地域」「他校」「企業」を絡めた年間活動計画を作成することにより、活動の見直しと見直し、かかわりの連続性や広がりについて再構成し、志教育の目標達成に向けて実践することができた。
- (2) 児童生徒交流発表会の実施

小学生、中学生、高等学校生が同じ会場で、それぞれの実践を発表し合うことによって、他校の取組内容を知ることができたと同時に、自分たちの活動が小・中・高・地域と密接にかかわっていること、連続していることに気付くことができ夢が志に高まっていくことを実感できた。

また、地域のゆり園を運営している黒澤さんの講演を聴くことにより、地域を思い、地域のために頑張っている人がいることを身近に感じ、自分も地域のために何かしよう、地域のために役立つ人間になろうという志をもつことができた。

【課題】

- (1) 本年度、本地区が行った活動は、これまで各校が行ってきた活動を見直し充実させたものであった。本事業を行うことによって、各校が充実した志教育を行ってきたことに改めて気付いた。今後も各校ごとに、これまで以上に実践が深まっていくよう発展させていかなければならない。
- (2) 本事業の指定を受ける前から、「地域」「他校」「企業」との連携を行ってきたが、本指定を機に、各校との情報交換を密にし、ますます連携を強化し、児童生徒の志を高めていくよう努めなければならない。



平成27年度宮城県志教育支援事業（推進地区指定）
（石巻地区）：（青葉）中学校区の実践



【推進校】

- ・石巻市立釜小学校
- ・石巻市立青葉中学校
- ・宮城県東松島高等学校
- ・宮城県石巻西高等学校

【目標】

学校及び地域、社会の中で、「互いに認め高め合う集団及び人間関係」「高校生と小学生との防災学習の構築」「目標やビジョンを持った主体的な学習の創造」「役割や責任を自覚し、社会に貢献する姿勢の育成」を目指す。

【取組の概要】

1 取組の方針

地域行事の開催が困難な状況ではあるが、学校は保護者及び地域住民と交流できる場として注目でき、児童・生徒の成長を促す機会も多い。幸い、青葉中学校区は1小1中のため連携が図り易く、地域と協働しながら社会貢献の機会を作ることが可能である。また、高校との連携も加え、小・中・高の縦のつながりを大切にしながらか「志教育」を実践し、それぞれの段階で「育みたい姿」の実現を目指す。

2 実践の概要

- (1) 「かかわる・もとめる・はたす」の3視点を明確にした志教育の指導計画の見直し
- (2) 「みやぎの先人集」を活用した授業実践と記録の累積
- (3) 小中学校の行事等への児童・生徒の相互参加（運動会、体育祭、釜小秋まつり）
- (4) 吹奏楽部による「地域でのコンサート活動」
- (5) 小中教員の相互乗り入れによる「ワンウィーク研修」の実施
- (6) 青中生と釜小の児童の交流授業及び6年生の中学校での授業・部活動体験
- (7) 高校の教師を招いた中学生への「進路学習」の実施
- (8) 高校生による小学生への「読み聞かせ活動」
- (9) 「防災教育」を中心とした小学生への高校生の協力
- (10) 「志教育支援事業」石巻市青葉中学校区実践事例発表会の実施

【成果】

- 1 「かかわる・もとめる・はたす」の3視点について定期的に児童・生徒の姿を振り返る場を設定した。教職員間の交流の場を意図的に設定し、「身に付けさせたい力」についてビジョンを共有しながら、取り組みを進めることができた。
- 2 植栽活動では全校児童が分担し、地域や企業のボランティアの方々と一緒に球根や花の苗を植える活動を通して児童の思いやりの心を育てることができた。
- 3 学校生活において、これまで以上に生き生きと輝く児童・生徒の姿を見ることができるようになった。
- 4 学校行事における小中連携や、中学生が小学6年生に中学校生活についてワークショップを実施した。小中連携の新しい形として、児童・生徒主体の交流という試みを提案することができた。このことにより中一ギャップを大きく解消することにつながった。
- 5 高校生は、読み聞かせを行ったり、自分の震災経験に基づいた防災教育を小学生に伝えたりすることにより、自己有用感を高めることができた。一方、小学生は「教えてくれた高校生のように地域のために何かしてあげたい」という気持ちが高まった。
- 6 中高生と一緒に部活動を行くことにより、中学生はより高い技術を習得することができ、高校生は練習意欲を高めることにつながった。

【課題】

- 1 今後も児童・生徒主体の交流事業について工夫を続けるとともに、小・中学校、高等学校の12年間を通して育てたい児童・生徒像を共有しながらいろいろな連携の在り方を模索していく必要がある。
- 2 持続可能な連携活動を定着させるに当たり、生徒の輸送に係る予算や手段を確保していく必要がある。
- 3 アンケート等を実施して、児童・生徒の変容を検証しながら連携の取組を実践していく必要がある。

平成27年度宮城県志教育支援事業（推進地区指定）

（気仙沼）地区：（津谷）中学校区の取組

【推進校】気仙沼市津谷保育所・気仙沼市立津谷幼稚園・気仙沼市立馬籠幼稚園・気仙沼市立津谷小学校・気仙沼市立馬籠小学校・気仙沼市立津谷中学校・宮城県本吉響高等学校

【目標】テーマ：『つなげよう 高めよう ふるさとへの想い』

保・幼・小・中・高が連携し、地域とのかかわりを通して、夢と志をもち、地域の復興と発展を支える子どもたちを育成する。

【取組の概要】

- (1) 1学期
 - ・各校種の取組についての情報交換及び事業計画の作成
 - ・「志教育」年間指導計画の吟味と連携についての検討
- (2) 2学期
 - ・異校種間連携交流活動の実施（授業，行事，教師間，生徒間等）
 - ・地域行事への主体的な参加
- (3) 3学期
 - ・推進指定校としての研究のまとめ
 - ・事例発表会の開催



推進校名	主な実践事例【保・幼・小・中・高連携】【地域連携】
津谷保育所	＊「ひまわり会七夕のつどい」（社会福祉協議会・本吉地域一人暮らし高齢者交流事業への参加） ＊「手作りおもちゃで一緒に遊ぼう」（中学校2年生家庭科との連携）
津谷幼稚園	＊「サツマイモの苗植えをしよう！」（地域のお年寄り・保・小との交流） ＊「防災さんぽに行こう」（避難所や非常食について地域の方から学ぶ体験）
馬籠幼稚園	＊「なかよくなるろう！」（栽培活動・合同園外保育での他幼稚園との交流） ＊「たべるのだいすき！」（収穫物のクッキング・試食体験等，地域との交流）
津谷小学校	＊「なかよくいっしょにあそぼう」（苗植えやゲームなど保・幼との交流） ＊「探ろう！大豆の秘密」「津谷の味を作ろう」（米作り，大豆栽培，味噌製造など地域との交流）
馬籠小学校	＊「ようこそ先輩」（中学校との交流） ＊「つくろう！安全な町・馬籠」（少年消防クラブへの入団と地域との合同避難訓練）
津谷中学校	＊「伝統芸能を学ぼう」（地域の伝統芸能『御岳太鼓』を学ぶ） ＊「職場体験から学ぼう」（地域の事業所等での職場体験学習）
本吉響高等学校	＊プランター植栽活動【保育所・幼稚園・中学校との連携】【地域との連携】 （保育所・幼稚園・中学校・本吉駅でのプランター・花壇の植栽活動）



【成果】

- 学校間の連帯感が強まり，それぞれの活動のねらいや内容を共通理解し，目指す子どもの姿，身に付けさせたい力について見通しをもった支援を図ることができた。
- 異校種間での交流によって上級学年については自己有用感，下の学年の子どもたちにとっては上級学年への憧れが将来の目標となり，自尊感情の育成につながった。
- 地域の人々との交流や地域の産業や伝統文化を知ることによって，地域への愛着を形成し，地域再生の担い手としての意識を向上させることができた。

【課題】

- 保・幼・小・中・高の連携活動を一層充実させ，系統性をより効果的なものにする。「みやぎの先人集 未来への架け橋」や 朗読DVDの計画的な活用など，道徳や各教科の授業においても校種間の連携を図り，指導の記録を累積し，取組を強化・継続する。

